
逆垂れの草

愛威慈郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

逆垂れの草

【Nコード】

N2817K

【作者名】

愛威慈郎

【あらすじ】

ただの昔話さ。

どうってことないよ、ただ眠たいだけ。

そしてわかった気がした

それが僕の恐れたものなんだと

春は残酷、明るみが皮膚を焼く

理解は鈍い

やっとの事で弱さを知れる

学校は嫌いじゃない

嘘

本当は嫌いだ

何で嫌いかは知らない

そんな事どうだっていいじゃないか

だって考えたくもないんだよ

好きか

嫌いか

一体どの返事がお望みなんだ

何だかよくはわからないけれど

君が僕を見ていない事はわかったんだ

いつからだ

こんな圧迫されてるような息遣い

「苦しい」 ってもしかしてこれの事かい

蝉がうるさい

空を飛ぶ鉄の轟音と一緒に聞こえる

そんな時

理性はいとも容易く屈折する

僕は鋏に釘付けさ

もうその凶器は僕の血の匂いを知ってる

ああ息苦しい

別に夏は嫌いじゃない

嘘

本当は嫌いだ

何だかよくはわからないけれど

僕が皆を見たくない事はわかったんだ

いつからだ

どんなに眠ったって寝足りない

学校に着いて

朝から

放課後までずっと寝る

前はこんな事なかったんだ

授業も受けたし

休憩時間には友達と遊ぶんだ

給食もおかわりしたし

放課後には部活だってある

あ

誰かが話しかけてる

でもごめん

何だかとても眠いんだ

そういえば今日、

友達なのかわからない人が

「心配だ」って言ってた

僕はずっと心配だったよ

君が僕の友達なのかって

多分、苦しい

多分、悲しい

わかる

わからない

ただ、毎日気にもかけてなかった呼吸が

凄くしにくい

酸素を吸って二酸化炭素を吐く

それだけの事

誰かやり方知ってたら

僕に詳しく教えてくれよ

何だかどうでもよくなってきたみたいだ

「変わったね」と言われた

なんだ

君には僕が見えていたのか

でもその一言が

結局はサヨナラの合図だったみたい

とりあえず

家に帰ろう

でもそこに僕の居場所はない

在るのは僕が作った僕だけの心

そうだ何もない、

早く寝なきや

切るとどんな気分だ？

裂けるとどんなだ？

溢れ出る赤に

お前は何を感じてる？

蒸し暑さと比例して

今日の午後

廊下に垂れる赤

うるさい、蝉

こんな話、僕らしくないって？

僕もそう思う

ただ優しい人たちに

笑える話と思ってね

ところで、

君の知ってる僕は

どいつのことだい？

その僕には一体どれだけの僕らしさがある？

君には一体

どれだけの僕らしさが理解できる？

恐ろしい

遣うだけでこんなにも陶醉しきる

自分を美化する事も簡単だ

愚かで無様で美しい

だから言葉は嫌いじゃない

嘘

本当は嫌いだ

知らない

ふり

幼稚な世迷い言に少しだけ

本当を落としておくよ

わかった気がした

何だ

僕は弱いじゃないか

静寂

の

連続

春は三回

今日もまた昨日の連続

赤、白、黒、

在りもしない悲哀に穿つ

知りもしない心の在処。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2817k/>

逆垂れの草

2010年10月11日18時00分発行